

# ぬくもり 群馬

2023 秋号



## [INDEX]

- P2 副会長挨拶
- P3 HPリニューアル
- P4 全体研修
- P5 学生向け研修
- P6 SWD2023
- P7 委員会紹介

## 副会長挨拶

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会 副会長 星野裕一



日頃より、関係機関の皆さまにおかれましては、当協会の活動及び医療ソーシャルワーカーに対して、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会は医療ソーシャルワーカーの職能団体として昭和37年に「群馬県医療社会事業協会」として設立、平成13年に「群馬県医療ソーシャルワーカー協会」と名称変更し、令和2年には一般社団法人を設立いたしました。設立当初は27名の会員でしたが、現在は281名（2023.7.31現在）と会員数は増加し、協会としての活動範囲も拡大し、大きく飛躍してまいりました。昨年は60周年の節目を迎え、今年度は群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会とともに、「群馬県ソーシャルワーカー連盟」を発足いたしました。

群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会と当協会の三団体（以下、三団体）は、活動する分野こそ様々ですが、同じ倫理綱領のもと保健医療分野においてソーシャルワーク実践を行う社会福祉専門職の職能団体として、お互いに情報や意見交換を重ね、協働して学び、分かち合い、切磋琢磨してまいりました。このような取り組みは各都道府県で行われており、その活動の一環として、毎年海の日を「ソーシャルワーカーデー」とし、三団体合同での講演会や研修会、シンポジウムなどのイベントを開催しております。本年度も、本県を含め全国21の県各地で「ソーシャルワーカーデー」が開催されました。

本県も去る7月29日に「ソーシャルワーカーデー2023inぐんま」を3年ぶりに対面で開催いたしました。開催の報告は本誌内で後述いたしますが、研修会終了後に、「群馬県ソーシャルワーカー連盟」の調印式を行いました。本県では2019年3月より、三団体の代表で定期的に集まり、各会の活動報告や課題など、情報・意見交換を重ねてまいりました。協議を重ねていく中で、三団体が「一つになること」に大きな意義を見出し、連盟発足に向け会則の作成など、準備を進めてまいりました。今後は、三団体が団結し、合同での研修会開催や、広報誌の発行などを企画し、更なる社会貢献を果たしてまいりたいと考えております。

今後とも、ご指導ご鞭撻をいただきますよう、お願い申し上げます。

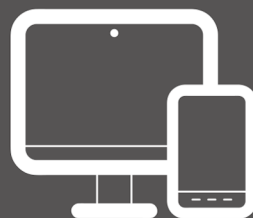






医療ソーシャルワーカー

# HPリニューアル



前橋赤十字病院  
内田 真穂



群馬県医療ソーシャルワーカー協会  
Gunma Medical Social Worker Association



このような時にご相談ください



治療や療養生活に関する不安や悩み



退院後の生活の不安



会社や学校などの社会復帰に関する心配



治療や療養に関すること



医療費などの経済的にお困りのとき



高齢者や障がいの方が安心して暮らせるよう、住みやすい地域づくりのための連携や協働が必要なとき



## 入会のご案内

群馬県医療ソーシャルワーカー協会は保健・医療・福祉の分野で働いているソーシャルワーカーの団体です。当協会の趣旨をご理解、ご賛同いただける方、またはこれから群馬県で働きたいと思っている方々の入会を心よりお待ちしております。



当協会の新しいホームページが協会創立記念日である8月14日に公開しました！！

一般社団法人化に合わせて、一般の方にも医療ソーシャルワーカーの役割や活動が伝わるようなホームページを目指しました。

またスマートフォンでも見やすいデザインになっており、これまでよりも使いやすく、より情報にアクセスしやすくなるように広報委員が中心となって試行錯誤を重ねました。

# 全体研修

前橋赤十字病院  
碓井 祐太郎



2023年5月13日の総会後に第1回全体研修が行われました。「性の多様性とソーシャルワーク ～LGBTQ+と医療～ 医療従事者として知っておきたい性の多様性と社会の仕組み」というテーマで大阪医療センターの岡本学先生にご講演いただきました。参加者は新入会員を含む54名と多くの関心を集める企画となりました。

長年連れ添ったパートナーが突然病気になり意識障害がある時、終末期の時、死後・・・同性パートナーシップ制度などの整備がなされ始めているとはいえ、親族とは異なる扱いを受ける部分も存在します。またそもそもパートナー関係にあることを開示することが心理社会的に難しい場合もあります。

特に医療という個別性が重要視されつつも、効果を最大限に出すために、効率化・システム化できるものは画一的なものを取り入れていくという場所において、ともすればその狭間に取り残される当事者がどのような葛藤や立場に置かれ、そして我々ソーシャルワーカーはどのような手の差し伸べ方ができるのか、広い視座を得られる講義でした。講師ご自身の取り組み、例えば保険証名とご本人が名乗る氏名が異なることもあるということ、病院の窓口となる事務も理解しており、「どのような配慮が必要ですか？」とソーシャルワーカーから声掛けができるような体制を作っていることなどをお聞きし、我々もすぐにも取り組めることがあると感じる、非常に示唆に富む研修であったと思います。





# 学生向け研修

前橋赤十字病院  
碓井 祐太郎

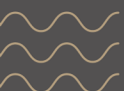


2023年7月2日（日）高崎健康福祉大学をお借りして、当協会としては数年ぶりの対面での学生向け研修を実施し、県内大学より33名の学生さんにご参加いただきました。終日研修で、午前中は「医療機関におけるソーシャルワーク支援の実際」と題し、事例を交えて前橋赤十字病院の山岸 佑気 氏、群馬中央病院の林寛己 氏にお話いただきました。

後半は「先輩MSWが伝えたい面接技術」と題した援助技術講義を群馬リハビリテーション病院原田 航輝 氏に、そして「現役MSWへのインタビュー」には渋川医療センター 小野里 真紀氏、高崎総合医療センター 向田 綾乃 氏にもご協力いただき、医療現場におけるソーシャルワークについて学生にお話いただきました。



学生さんからはソーシャルワークに関する専門的な質問から、働き方や給与に関すること、国家試験対策や就職試験対策など幅広い質問があり関心の高さを伺えた研修だったと振り返ります。感想も肯定的なものを多くいただき、医療福祉領域のソーシャルワーカーのやりがいを感じていただけたものと思います。後進育成は重要な課題です。研修企画委員会一同、今後も魅力ある研修を作っていきたいと思っています。





# Social Worker Day 2023 in ぐんま

太田記念病院 津田 至



令和5年7月29日（土）に群馬県社会福祉総合センターにて、ソーシャルワーカーデー2023 in ぐんまが開催され、県内のソーシャルワーカーや医療福祉関係の専門職、約100名が参加をしました。ソーシャルワーカーデーは、群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会、当協会の三団体合同で毎年開催をしています。今年度は10回目の節目となる年でもあり、コロナ禍以降3年ぶりの対面での開催でした。

今年度は「トラウマインフォームドケア」をテーマとして、武庫川女子大学の岡由佳先生に「トラウマインフォームドケアから学ぶ潜在的ニーズの支援」という演題でご講演いただきました。トラウマインフォームドケアとは、心的外傷（トラウマ）やその影響に関して十分に知識を持ち、理解し、配慮ある関わりをすることであり、トラウマに注目した介入・組織的アプローチです。私たちMSWも対人援助職として、声かけや話の聴き方ひとつにしても、トラウマの視点を持つことの必要性を深く学ぶ良い機会になったと思います。

また講演終了後には「群馬県ソーシャルワーカー連盟」発足の調印式が行われました。こちらの詳細につきましては、前述の星野副会長からの報告をご覧いただければと思います。

ソーシャルワーカーデー2023 in ぐんまにご参加いただいた皆様、実行委員・協力員の皆様、ありがとうございました。来年度は群馬県ソーシャルワーカー連盟発足後、初めてのソーシャルワーカーデーになり、当協会が主幹団体となります。今年度中から実行委員を組織して動き出したいと考えておりますので、皆様ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。







# 委員会紹介

組織率向上委員会 委員長  
高崎総合医療センター  
高橋 紀貴

組織率向上委員会は、当協会の委員会活動開始当初から発足し活動している委員会です。主に県内の保健医療分野で相談支援を行う方々の当協会への加入促進を目的とし活動しております。これまでに、隔年で会員ならびに県内の保健医療分野の相談支援を行う方々の動向や当協会加入に関する内容等のアンケート調査の実施と、協会加入の促進を目的とし会員外の方の参加が可能な研修会を開催し、専門職団体としての組織率向上に向けた活動を行ってきました。

具体的には、2021年11月13日に「組織の中でのソーシャルワーク業務とは～それぞれの立場～」と題して、職場環境や業務の改善をテーマにディスカッションし、介護老人保健施設の支援相談員と医療ソーシャルワーカーの交流を図りました。同じ保健医療分野で活躍する福祉職ではありますが、病院と施設の業務の違いを知ること、互いの共通点や課題等を共有し、様々な課題や問題の解決のために、「横の繋がりづくり」として当協会への加入を呼びかけました。

また、過去9回のアンケート調査を行っており、ここ数年の調査結果では、県内の半数近くの「病院」に所属する医療ソーシャルワーカーが当協会に加入していないことがわかりました。加入していない方の中には過去に当協会へ加入していた方もおり、「業務や家庭の都合で研修や協会活動への参加が困難」等の理由が特に多くみられました。これらの意見を受けて当協会としても活動のあり方を考える機会となりました。

福祉を基礎とする資格を有する我々は、職能団体に加入し自分たちの知識や技術等の維持・質の向上や待遇等の改善を図ることも大切です。それと同時に福祉専門職団体として社会課題に対してソーシャルアクションを行わなければなりません。そのためにも、多くの方々に加入していただく必要があるため、引き続き組織率向上を目指し活動していきます。



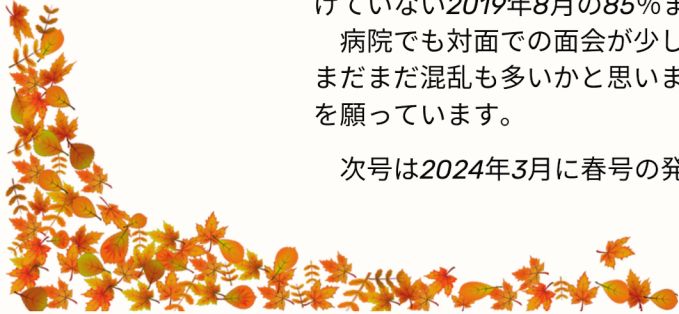
## 編集後記

「ぬくもり群馬 2023秋号」をご覧くださいありがとうございます。

5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。今後、感染対策は個人の判断に委ねられるほか、法律に基づいた外出自粛の要請などはなくなり、3年余り続く国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。世界的に見みても、WHO（世界保健機関）が約3年3ヶ月続いていた新型コロナウイルス「緊急事態宣言」を5月5日に終了しています。また、8月の訪日外国人数はコロナ禍の影響を受けていない2019年8月の85%まで回復しているそうです。

病院でも対面での面会が少しずつ増えている印象です。変化が多い時期はまだまだ混乱も多いかと思いますが、少しでも明るいニュースが増えることを願っています。

次号は2024年3月に春号の発行を予定しております。お楽しみに★



## 広報委員会

原島 歩志	(老年病研究所附属病院)
内田 真穂	(前橋赤十字病院)
星野 裕一	(鶴谷病院)
小淵 匡	(沼田病院)
小川 貴之	(桐生市医師会)
長野 明日香	(高崎総合医療センター)
長峰 雅史	(前橋赤十字病院)



ぬくもり群馬  
2023秋号

令和5年9月28日発行  
編集発行：広報委員会

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

事務局 〒377-0007 群馬県渋川市石原2404-37(おがた社会福祉士事務所内)

Tel:080-2308-1599 Fax:0279-51-9884